

研究構想シート		学校名	松江市立津田小学校
		氏名	松本 竜一
A 研究主題 主体的に学びに向かい、自らの考えをもち、ともに学び合う子どもの育成 ～ 学びを支える手立ての工夫を通して ～			
B 研究の目的 「主体的に学びに向かい、自らの考えをもち、ともに学び合う子ども」を育成するために、どのような手立てが有効であるか、授業実践を通して明らかにする。			
C 子どもの実態 本校の児童の多くは、授業に意欲的に臨み、与えられた学習に対しては真面目に取り組むことができる。その結果、基礎的な学習内容の大体を身に付けることができていると考えられる。一方で、「何かを見たり、聞いたり、触れたり、活動したりした時、素直な思いや問いをもてない」、「自分の思いや考えを、自分の言葉で表現することが難しい」といった主体性に欠ける姿も見られる。	E 手立て・内容（研究仮説） 【研究仮説①】子どもが興味や関心をもつような学習課題を設定し、学習課題を自分ごとと捉えて学習に取り組みば、主体的に学びに向かおうとする態度が育つであろう。 A教材・学習課題との出会いの場の工夫 Bまとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定 C情報収集場面でのICTの利用 【研究仮説②】課題解決への見通しをもち、様々な根拠を踏まえて表現する学習に取り組みば、自らの考えをもつ子どもが育つであろう。 Aねらいや学習課題、学習の流れの明確化 B個人思考を深める手立てや位置づけの工夫 ・ワークシート、ノート指導、資料の提示、操作活動等 C根拠資料としてICTの利用 ・プレゼンアプリ、写真、動画の活用等 【研究仮説③】子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、ともに学び合おうとする子が育つであろう。 Aペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫 ・具体的な言語活動の工夫 ・話合いの形態の工夫 Bグループ学習での共同学習ツールとしてのICTの活用		D めざす子どもの姿 ○自分の考えや思いをもち、主体的に学びに向かう子ども ・自ら問いをみつけ、その問いの解決をめざして学びに向かおうとする ・見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげようとする ・学習活動を自ら振り返り、意味づけたり、獲得された知識・技能や育成された資質・能力を自覚したり、共有したりしようとする ○他者と関わり合うことで、自らのものの見方・考え方を広げたり深めたりし、追求し続けようとする子ども ・互いに思いや考えを認め合おうとする ・他者の思いや考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりしようとする
	F 検証方法 ・各学年部で具体的な取組を検討し、研究を進める。 ・学年部ごとに成果と課題を明確にする。とりまとめたものを学校全体の成果と課題として共有する。		
	G 研究計画 6月 研究構想提案 学年部で具体的な取組を検討 7月～8月 各学年部の具体的な取組を紹介 取組を踏まえた授業について検討 9月～1月 各学年部で実践 2月 成果と課題について学年部で検討 3月 各学年部の成果と課題を紹介		